

## 今月の PICK UP



『切手デザイナーの仕事』 間部 香代/著 グラフィック社 693.87

日本郵便の切手は、1年に約40件発行されます。そのすべてをデザインしているのは、たった8人のデザイナーたちです。本書では、日本郵便切手・葉書室に勤務する8人8様の切手制作とその奥にある人の姿に迫ります。切手デザイナー採用試験の話、Yahoo!ニュースのトップになった伝説のヒツジ年賀葉書の話、ぽすくま1円切手制作の秘話、日本切手史上初めての細長切手発行の話など、驚きと共感のエピソードの繰り返しです。

また、随所に8人の代表作が紹介されており、ただ々その美しさに見惚れてしまいます。

## 司書の おすすめ



『ゆきあってしあさって』 高山 羽根子・西島 伝法・倉田 タカシ/著  
東京創元社 913.61

本書は、3人の作家がリレー形式で綴る旅書簡集です。ただ一般的なそれと違うのは、行先、そこで出会う人々、風習など全てが架空だということです。架空とわかって読んでいるのに、"これは現実?"と時折錯覚してしまいそうなほど描写がリアルで、幻想的な世界を楽しめます。

『ズラータ、16歳の日記』 ズラータ・イヴァシコワ/文・絵 世界文化ブックス 369.31

ロシアによるウクライナ侵攻が始まって1年超。この本は、ウクライナに住む少女・ズラータが書いた日記です。「明日から戦争になります」と担任の先生に告げられた2022年2月24日から、憧れの日本へやってくるまでの約4か月。母が必死で工面してくれたお金をもって日本へ渡る決意をし、思わぬ縁を得て日本へたどり着く様子が、ズラータの絵と共に率直に書かれています。



『沈没船博士、海の底で歴史の謎を追う』 山船 晃太郎/著 新潮社 202.57



水中考古学という言葉をご存じでしょうか。水中に眠る沈没船や遺跡を発掘・研究する学問のことを指します。この本では、その博士号を持つ著者が活動内容を紹介しています。

決して視界良好とはいえない水中で、どうやって発掘を行うのか、沈没船の謎ときが地域の人達のルーツを物語るものだった等、数多くのエピソードを通してこの学問の楽しさが伝わってきます。

『仏像に会う - 53の仏像の写真と物語』 西山 厚/著 ウェッジ 718.0

美術館の館長でもある著者は、仏教美術史の専門家です。仏像が作られた時代別に紹介されたこの本は、仏像について知りたいと思っている方にぴったりです。仏像一つ一つの良さが一番よく出ている写真を著者が選び、それぞれの歴史背景を語ります。特に仏像の特徴を表した著者の一言は絶妙です。気になる仏像があれば、この春会いに出かけてみてはいかがでしょうか。

